

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション5：若年層向けの海洋教育プログラム

Photo credit: Nick Hall

ワタム海洋協会

ケニア、コースト州キリフィ郡ワタム

1) 当プロジェクトの主眼点

ワタム海洋協会（WMA）プロジェクトでは、主に以下の点に重点を置く。

- ケニアのワタム海洋国立公園と海岸の環境に影響を及ぼすプラスチックおよびその他の海ごみの量を大幅に減らす。
- 持続可能な地域密着型の廃棄物管理施設を設立し、廃棄物リサイクルのバリュー・チェーンを確立することにより、小規模なりサイクル企業を創設する。
- 廃棄物管理のベスト・プラクティスに関して教育を提供し、意識を高め、他の沿岸地域の町や村でのプロジェクトを再現する。

2) 参加組織その他のパートナー

WMA は、ワタムの観光、コミュニティ、環境の各セクターの垣根を越える 30 以上の会員グループおよび組織から構成されている。この協会は、持続不可能な海洋資源の利用、資源の利用者間の競合、海洋環境への脅威に関する懸念に対応して結成された。

WMA は、複数のレベルでパートナーシップを形成した。コミュニティ・グループ内で能力を開発するために、WMA はその会員間の現地パートナーシップを結成し、観光業界（特にホテル）の会員との関係を醸成している。その他のプロジェクト・パートナーには、ケニア野性動物保護局や国立環境管理機関などの政府機関が含まれる。海岸の清掃とリサイクルのためのパートナーには、海洋管理委員会、Ocean Sole（ビーチ・サンダルのリサイクル会社）、エンデンジャーードワイルドライフジラフセンター、フレンズ・フロム・アイルランドなどがある。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

WMA の主な作業領域：

- 海洋環境の繁栄と海洋資源の持続可能な利用を支援する。
- 海洋保護プロジェクトを策定する。
- 持続可能な観光と地域密着型のエコツーリズムの発展を支援する。
- 地域密着型の団体と企業を設立する。
- 固形廃棄物管理とリサイクルの企業を運営する。

固形廃棄物リサイクル施設の設立は、能力開発において大きな成功を収めた。現在、この施設は、持続可能な廃棄物管理とリサイクルの能力、25 のコミュニティの廃棄物収集業者とリサイクル業者に対する仕事と所得を提供している。この施設には、コミュニティの芸術家が、リサイクル可能な廃棄物からアートや工芸品を制作できるセンターもある。

また、地域密着型団体と現地の観光業界間の良好な関係を醸成することにより、海岸の清掃と廃棄物管理活動に対する長期的な資金援助を受けることができた。このことは、貧しいコミュニティ・グループの権限を強化し、地域密着型の廃棄物管理能力をさらに高めるために役立った。

4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび／または同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

主な課題は、土地を購入し、リサイクル施設を設立するための資金調達であった。これには 4 年かかったため、プロジェクトで十分な効果を達成する時期が遅れた。

このプロジェクトの影響を受けて、沿岸の他のコミュニティでも、海岸が清掃され、それぞれの村で生じる廃棄物がリサイクルされるようになった。沿岸の複数のコミュニティ・グループに対して研修と教育が提供され、廃棄物リサイクルのバリュー・チェーンが形成された。このバリュー・チェーンによって、プラスチック廃棄物をプロジェクト・リサイクル施設に販売し、ビーチ・サンダルをナイロビの Ocean Sole に販売し、リサイクルされた素材から制作したコミュニティの手工芸品をホテルの専門店に販売することができるようになった。

5) このプロジェクトの次の段階

このプロジェクトでは、もっと多くのコミュニティに活動範囲を拡大し、沿岸地域で廃棄物リサイクルの運営とネットワークを確立することを計画している。定期的な海岸の清掃が実施され、世界環境デー、世界海洋デー、国際海洋清掃デーなどに、国家的な海岸清掃イベントが開催される予定である。海岸の清掃によって、数トンのリサイクル可能な廃棄物が生じ、沿岸のコミュニティに所得が生じる。

ワタムのリサイクル施設は、有機廃棄物からの堆肥化、バイオ・ガスとバイオ燃料の生成など、他のリサイクル技術も活用している。すべての新しい建物は、プラスチックとガラス瓶の廃棄物で建設され、この敷地はエコ・ワールド・ワタム (Eco World Watamu) と呼ばれている。このプロジェクトの一要素であるこの施設は、すでに住民と観光客に人気があり、地域密着型の環境に対する取り組みのケース・スタディとして、国際的な関心を集めている。WMA は、環境のベスト・プラクティスに関する学習センターを設立するために、政府と教育機関とのパートナーシップも提案している。

<http://www.watamu.biz/watamu-community.php?cid=32>

MALINDI-WATAMU COAST

